

星野 だより

VOL 20

6月定例議会一般質問

空き家対策について

平成27年5月に、『空家等対策の推進に関する特別措置法』が施行されました。テレビなどで報じられていましたので、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、特定空家とされた場合、最大で固定資産税が6倍になることになりました。

町内には、空き家が増えつつあります。また、西伊豆町は2040年には人口が半分になると言われている中で、現在居住者のいる家屋の約半分が、これから空き家になっていくという可能性も秘めています。

地震・火事などが発生した場合、避難の支障や延焼の危険も考えられますので、空き家対策についての質問をしました。

豆知識 町ではブロック塀の撤去改修に補助金制度あり

- ◎危険なブロック塀等を撤去する場合（撤去事業）
 - ◎緊急輸送路等の災害時に重要となる路線沿いの危険なブロック塀等をフェンス等の安全な塀に改善する（改善事業）
 - ◆撤去事業「撤去に必要な工事費」と「撤去する塀の長さ×8,900円/メートル」を比較し、少ない額の2分の1（限度額10万円）
 - ◆改善事業「改善に必要な工事費」と「撤去する塀の長さ×38,400円/メートル」を比較し、少ない額の2分の1（限度額25万円）
- 補助金の申請をお考えの方は、担当課までお問い合わせください。

発行・編集 西伊豆町議会議員 星野浄晋後援会
賀茂郡西伊豆町田子1635
TEL 090-1826-3916

空き家の情報収集は

町内に空き家がどの程度あり、町が把握しているのかを伺いました。

答弁 借家として提供できる空き家は把握しているものの、日頃は空き家でも、正月・盆などで帰省するなどの理由がある物件数までは把握していません。

解体費補助は

空き家を解体しようと思っても、先立つものが無ければ難しいものです。少しでも補助をすることによって、解体の呼び水となるのではないかと思いますか？

答弁 今後必要が出てくれば、あり得るかもしれませんが、現在の町財政を考えると難しい。

朽ち果てて危険な建物は

空き家の中には、明らかに危険な建物や、朽ちてしまっているものもあります。景観の問題や、火災の温床にもなりかねないので、町としての対応を伺いました。

答弁 所有者の方に解体をお願いしている物件も何件かあります。特定空家に認定しなければ法的措置をとることはできません。認定するためには、協議会を設置し諮る必要も出てきますが、そこまでは行っていません。

西伊豆町は、海・山に挟まれ少ない平地に家が密集し建っています。

このところの住宅事情を考えると、家の他に駐車場スペースなどが確保できる土地に新築住宅の建設が見受けられます。

家屋が密集している場合、改築を考へても重機が使えず割高になることもありますし、避難路の確保も難しくなります。

左記のブロック塀の撤去・改修補助のような制度の創設を、今後も要望していきたいと思ひます。

議会だよりもご覧ください

災害時の水確保

過日、熊本県・大分県で震度7の地震が発生し、今でも震度4クラスの地震が発生しています。

被災時に備え、食料などは各自で持ち出し袋を用意したりと、緊急時に備えてはいるものの、こういった支援が来るのかまでは、その時にならないと解りません。

ただ、想定をした中で、出来ることはしておく必要があります。通常であれば、被災後約3日後をめどに、色々な支援物資が届くと思われます。

現に熊本の地震でも、3日後以降は飲料水には困らないほどペットボトルの水は届いたようです。（末端まで届いたかは別）

ただ、風呂・洗濯・トイレ用の水の確保は、水道管に支障が出た場合には難しくなってしまう。

熊本でも、日常から井戸水を利用していた地区と、上水道の地区とでは、水の確保に大きな差がでたと



宇久須防災センター前

聞いています。特に地震などで地面に亀裂が入った場合、漏水箇所が特定できないこともあり、復旧に時間もかかります。

西伊豆町は、ほぼ上水道を利用していますので、被災時の生活水確保の観点から、町内の井戸や湧水の場所の把握を含め質問をしました。

町内の井戸は

町内には、使用可能な井戸がどの程度あり、湧き水など、非常時に使える湧水は何か所あるのか。

答弁 井戸の数は、詳細に把握はしていません。湧水などの水源は把握していますが、飲料水としてではなく、あくまでも生活水として使えるという認識です。

町民の皆様も、災害時に備え、各自3日分の食料と水をご用意していただき、地域内にある井戸や、生活水程度なら使える水源の場所を見つけていただければと思います。

裏面もご覧ください

災害時の要支援者

要支援者台帳を各区・自主防・医療機関などに事前に配布をし、災害時の避難や、避難所での支援に役立てては。という質問を平成22年12月定例会の一般質問でしましたが、個人情報などの面から配布に至っていないので、再度質問をしました。

名簿は配布の方向で

要支援者台帳の作成はどの程度進んでいるのか。また、各機関への配布はいつごろ実施するのか。

答弁 台帳の原本は、個人情報が多く含まれているので、災害時までには町で保管し、必要に応じて配布します。支援が必要とされる方の名簿（配布に同意していただいた方の名簿）は、今年度内の配布を目指しています。

現在、要支援者の方々に台帳配布の同意をお願いしております。7割の方にはご協力いただけているものの、3割の方々の同意が頂けていないそうです。被災時に、地域の方に迷惑をかけたくないという理由で、支援を断る意思をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、災害時に安否が確認できなければ、親類や地域の方は気が気ではなくなってしまいます。もしもの時に備え、ご協力いただければと思います。

名簿は配布の方向で

災害時に、避難所へお薬手帳を持っていた場合、処方箋が無くとも薬を頂ける場合があります。支援者台帳に持病や服用している薬（糖尿・血圧）などを書くことによって、お薬手帳が無くとも必要な薬を頂けるようになるのではないかと。 **答弁** 同意が頂けない場合、持病や薬の有無を町では管理することが出来ませんので、まずは台帳の公開に同意をしていただく必要があります。

台帳の公開は、あくまでも地震・津波などの災害時に公開されるもので、平常時に公開されることはありません。

消防団詰所移転

昨年（27年）第3分団（田子）の詰め所がバイパス沿いに移転し、今年（28年）には第2分団（安良里）が、国道上に移転する計画で、これから建設が始まります。

町内の消防団詰所が、深水域内に残るのは、4分団（仁科）のみになります。老朽化している蔵置所もあるので、深水域外への移転を含め質問をいたしました。

移転の方向で検討

4分団の今後についての検討はされているのか。また、移転についての考え方は。

答弁 沢田地区においては老朽化もあり、以前から



移転新築の話が出ておりました。現在、移転を視野に検討中です。

災害時、特に津波に対しては浸水区域外が良いが、日常の火災に対しては、利便性の良い場所も考える必要があるのでは、分団との話し合いについても質問をいたしました。

答弁 分団からも、複数の候補地を伺っています。

チョット教えて!!

Q 光回線の整備をするって聞いたけど、いつになったら使えるようになるの？

A 平成28年度内に整備が完了する予定です。

光回線のサービス開始は、平成29年4月までには、町内一斉に開通される見通し。尚、その前に電話会社が、各地区で説明会を予定しているとも聞いています。

Q 仁科の小学校で、放課後児童クラブが開始されたけど、賀茂小や田子小では実施しないの？

A 現在は、仁科小で試験的に実施をしている段階です。利用者数やニーズによって、今後の検討になると思われます。また、児童クラブの支援員のなり手も限られているので、現状では難しいかと思えます。

ただ、各学校とも児童数が少なく、来年度から田子小学校では複式学級が開始されます。統合することも一つの選択肢だと思います。

裏面もご覧ください

Q 安良里の診療所と、消防団詰所が新築されるそうですが、いつごろから工事が始まりますか？

A 8月3日に臨時議会が開催される予定です、診療所と消防団詰所の工事契約の議案が可決されれば、その後工事が始まります。平成29年3月には、両施設とも完成する運びになります。

国・県からの補助金減額

予定していた工事が、次年度以降に

平成28年度当初予算では、国・県の補助事業で行う道路工事費が2件計上されていきました。

- 1・田子安良里線改修事業
- 2・浮島新線改修事業

しかし、6月定例会の一般会計補正予算において、浮島新線改修を次年度以降に先送りする（減額）予算案が上程され可決しました。

田子安良里線の改修事業は、昨年度末に実施していた工事を引き続き行い、田子上バス停上の信号機までと、浮島トンネル内～月の浦上バス停までの、残り区間の舗装工事を行うものです。

浮島新線改修事業は、浮島トンネルを出て、右折し、海岸に向かって下り道がありますが、その法面（井田子側）を改修するものです。

最近、このような工事費の減額が数年続いています。



裏面もご覧ください



田子安良里線改修事業は、今年度を含めると、4年目になります。

なぜこのようなことが起きるのか、はなはだ疑問ですが、大きな要因としては、国・県が予算を組む前にはある程度の内示を出しているにもかかわらず、いざふたを開けると、必要額に満たない額の補助金しか、町に補助してくれないというのが状況です。

本来であれば、すでに田子安良里線は完成し、昨年度・もしくは今年度に浮島新線を改修し、次の年に安

良里の浦上バス停付近の工事を町は予定していたはずですが、予定がどんどん先に送られています。

よく、田子ばかり工事をすると怒られますが、本来ならば1年で行えるものを、国・県が出すものを出して下さらないので、2年3年かかってしまい、他地区にも迷惑をかけてしまっています。

ただ、この現象は西伊豆町のみではなく、全国的に工事費の補助金減額がみられるようで、都会は景気よく見えますが、地方は大変厳しい状況に変わりはありません。

また、西伊豆町はふるさと納税をたくさんいただいているので、こういった減額がされているのかを質問いたしましたが、ふるさと納税の額は全く関係なく、少額しか納税されていない町でも、同じように減額されているそうです。